

平成 29 年度
生活介護事業所アンジュ
事業報告

1. 利用者状況 (3月末)

○在籍状況 男性 46名 女性 29名 合計 75名

(平均年齢) 男性 57.5歳 女性 57.8歳 全体 57.8歳

○年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	4	1	8	7	16	10	46
女性	0	3	2	10	9	5	29
合計	4	4	10	17	25	15	75

○支援区分別 平均支援区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	5	10	16	10	5	46
女性	7	6	6	5	5	29
合計	12	16	22	15	10	75

○推移状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	22	23	22	23	20	22	23	22	22	21	20	23	263
男性	50	49	49	49	48	48	47	47	47	46	47	46	573
女性	32	31	31	31	31	30	30	29	29	29	29	29	361
利用者数	82	80	80	80	79	78	77	76	76	75	76	75	934
出席率	85.6	82.1	88.3	79.4	78.8	80.8	76.7	77.4	76.1	69.9	80.3	75.5	79.5

・新規利用者 1名 (H30.2 法人内 GH1 名)

・退所者 8名 (4月法人内 B型事業所 2名・7月老健施設 1名・8月有料老人ホーム 1名・
9月死亡 1名・10月認知症型 GH1 名・12月医療施設 1名・2月医療施設 1名)

○職員体制

・アンジュ

管理者 1名

サービス管理者 2名

生活支援員 12名 (常勤 10名 非・パート 2名)

看護師 1名 (兼務)

運転手 1名 (パート 1名)

- 事務員 2 名（常勤 1 名 パート 1 名）
- ・ 従たる事業所オリーブ
 - 生活支援員 3 名（常勤 1 名 非常勤 2 名）
- ・ 従たる事業所エコライフプラザ
 - 生活支援員 5 名（常勤 1 名 非・パート 4 名）
- ・ 従たる事業所原町食堂・キッチン Kiss
 - 生活支援員 1 名（常勤） 調理員 1 名（非常勤）
- ・ 従たる事業所モモズレシビ
 - 生活支援員 2 名（常勤 1 名 非常勤 1 名）
- ・ 職員の異動 1 名（7 月） 育休 2 名（常勤）

2. 利用者支援

今年度は今までのレクリエーション活動を 3 つのクラブ活動に変更し、利用者のニーズにより合わせた活動を行う事が出来た。他の障害者施設への移動や老人介護保健施設等へ移動する方が相次ぎ、定員割れが続いた。また、デイサービスの利用を開始する方も増え、高齢化に伴う心身の状況の低下により大幅に通所率が低下した。

3. 活動内容

(1) 生産活動

○受注作業

・(株) 東栄社

利用者の高齢化やニーズの変化により、作業量を調節し、利用者のペースに合わせた作業量に変更する事によって、他の活動とのバランスが取れる事が出来た。その結果、作業量を軸にするのではなく、利用者が改めて作業を楽しむ時間とする事が出来た。

収入 954,190 円

・(株) 小笠原

ボールペンの作業を主に 3 階で行っていたが、6 月から新しい種目（コネクター）が加わり作業の幅が広がった。内容的にはディズニーや USJ のキャラクターのボールペンの作業に携わる事で皆楽しく参加していた。ボールペンの組み立て作業は、他の作業と違い自分で完成させた実感と満足感を得られるため効果的であった。コネクターは、携帯の充電器の部材で一つのトレーに埋め込むだけの作業であるが全部埋めた事に対する達成感が感じられるようであった。

収入 1,264,139 円

・(株) プラコス

今年度から新たにシャープペンの中軸となる部分を作る作業を受注し行った。細かい

部品や工程が多い為、行う場所は分散せず3階の利用者のみで行った。その為か、責任感が生まれ利用者のやる気に繋がった。

作業工程は大きく分けて2つになり、特に最初の金具付けの作業は部品が細かい為、細かい作業が苦手な利用者は行う事が出来なかったが、次の組み立ての作業になると、順番を覚える事ができれば誰でも行う事が出来、大きな利点となった。

年間を通し、作業が滞る事無く継続して行う事が出来た為、利用者もミスが減り、楽しんで行う事が出来た。

収入 131,808 円

○委託作業

・清掃

8名の利用者が交代で休みを取りながら、センタービル内の清掃を行った。清掃場所も利用者も変わっていない為、手慣れた様子で清掃を行っていた。丁寧に行う事を意識してもらい、様子を観察し必要であれば助言ややり方を確認してもらった。

年度途中で女性利用者2名が怪我と体調不良で清掃作業から抜け6名で行う事となった。人数が減った事で、他の清掃メンバーへの負担も多く清掃箇所を限定した日もあった。2月に1名復帰し、もう1名も年度内に復帰した。

全員復帰する事により、今までの様に清掃は続けられるがメンバーの年齢も高く体力的に現在の清掃箇所を続けていく事は難しくなっている。清掃活動が仕事へのモチベーションとなっている方もいる為、今後の活動ではメンバーの年齢も考慮して内容の変更等を行う必要がある。

収入 480,000 円

○レンタルタオル

手拭タオル、食器布巾、台布巾を8か所に貸し出した。アイロン掛け、伝票作成、袋詰め、ごみ取り、タオル配達、洗濯を利用者の作業として提供した。伝票作成、袋詰め、朝の配達、洗濯は当番制にして責任を持って行ってもらった。書字がゆっくりな利用者は時間内に終われない事もあり、利用者でペアを組んで作業に携わるよう工夫した。

タオル配達は利用者の体力維持、健康維持も兼ねて行っていたが、暑い時期や寒い時期、職員体制の整わない日は難しい等の理由から年度後半は行う事が出来なかった。

また、アイロン掛け作業が出来る利用者が少なく、いつも同じ利用者が携わる事で作業が偏ってしまう事が課題となった。今後、アイロン掛けに携わる利用者を増やし、作業負担に偏りが出ないようにしていく。

収入 413,495 円

(2) 自主生産活動

前年度より、自主生産品としてしめ飾り、リサイクルペーパーポット、アクリルたわし、髪飾りの製作と販売を継続している。今年度からは新たにフラワーポットの製作と

販売を始めた。それぞれの製作には各利用者の得意とするところを活かし、意欲的に参加してもらう事が出来た。

課題として、知識や技術的な面から利用者に指導、指示が出来る職員が限られている点あげられる。

しめ飾り	収入 33,900 円
リサイクルペーパーポット	収入 2,180 円
アクリルたわし	収入 9,800 円
髪飾り	収入 3,150 円
フラワーポット	収入 16,000 円

(3) 創作活動

これまでのクラフトバンドとロールピクチャーの他、毛糸を使った作品作りが多くあった。キャンバス手芸やリリアンは手習いクラブやフラワーポット作りのきっかけにもなり、創作活動以外の活動の幅を広げる事が出来た。

今年度は他の活動との兼ね合いから、アンケートで辞めたい人、新たに参加したい人の希望を取った。他の活動を希望し辞めた利用者もいたが、新たに参加した利用者もあり、最終的には 40 名程の参加となった。

(4) クラブ活動

○運動クラブ

立石地区センターにて、約 20 名で着せ替えリレーやなんでもバスケットなど色々なゲームを行った。チーム戦にすることでそれぞれ個人でゲームを楽しみつつ、自分の番ではない時も応援するという形で参加する事が出来ていた。順位や勝敗は付けていたが、それにこだわる利用者はほとんどおらず、負けても勝っても満足し楽しむ様子が見られた。

散歩を希望していた利用者もいたが、職員体制等の問題でなかなか行けなかった為、今後は歩く機会も作っていききたい。

○芸能クラブ

カラオケ、演劇を立石地区センターを利用し 20 名程で行った。カラオケは 1 人で歌う、仲が良い利用者、職員と歌う等、各々の方法で楽しむ様子が見られた。また、ピアノの伴奏に合わせて季節の曲の合唱も行った。

演劇はお楽しみ会の出し物として発表し、緊張は見られたが、発表後は大変満足そうな様子が見られた。

今後も様々な活動を提供し、利用者が楽しむ事が出来るように配慮する。

○手習いクラブ

2 つの班に分け、手芸と公文を時間で交代しながら活動を行った。参加利用者は 20 名程で、創作活動やフラワーポットの花作りにも携わっている利用者が多かった。そ

の為か、創作活動と混同している利用者や、手芸にしか興味がない利用者もいた。どの利用者も頑張って作った作品や解いた問題に満足していた。

(5) 体力維持の取り組み

毎日、朝礼後にラジオ体操、昼食前に嚙下体操、午後の休憩後に介護予防体操を行った。介護予防体操は、年度後半より理学療法士に皆に馴染みがある歌謡曲2曲に分かりやすい振りの体操を作成してもらい導入した事で皆の関心を引き、今まで介護予防体操に参加していなかった利用者も多く参加するようになった。また、バージョンアップした体操を作成し来年度より実施予定である。

職員体制の関係から散歩等に出る事が困難となり、体力維持の取り組みは十分に出来なかった。

(6) 機能訓練

月2度の理学療法士の訪問時にオリーブ4名、アンジュ10名の利用者の身体の状態を見てもらった。理学療法士に作成してもらった訓練メニューを週3日程行ったが、職員体制の都合上、訓練を中止にする事もあった。今後は現在の職員体制でも訓練を実施出来るよう配慮する必要があると考えられる。

また、今年度は骨折する利用者が多く、筋肉の委縮や関節の拘縮などの問題があった。このような状態から筋肉や関節を回復させ、元の機能を取り戻す為のリハビリを行った。

(7) 行事・余暇活動

グループ外出、一泊旅行、お楽しみ会など、計画通り行った。ただし、納涼お楽しみ会のみ全体行事としては行わず、余暇の休日開所のなかで「すいか割り」として行った。

○行事

グループ外出は以下の日程で行った。

6月5日、7月6日	東京タワー
6月6、7日	NHKスタジオパーク
11月16、30日	アクアパーク品川

2年に一度の一泊旅行は以下の日程で行った。鬼怒川ホテル三日月に宿泊し温泉、食事等を楽しんだ。また、途中で日光おかし工房、宇都宮餃子館に立ち寄った。

	10月
1班	5～6日
2班	11～12日
3班	17～18日
4班	24～25日

還暦を祝う会・年忘れお楽しみ会は12月21日に行った。昨年度と同様に立石地区センターを利用し手づくりの昼食にビンゴなどを楽しんだ。利用者の方々を中心とした出

し物（劇、お笑い、ダンス）も行った。

○余暇

「休日開所」として以下の活動を行った。毎回 20～30 名が参加し好評であった。

4月29日	足立区生物園、クッキング（手巻き寿司）
5月3日～5日	すたみな太郎、クッキング（ホットケーキ）
7月17日	日本科学未来館
8月11日	すいか割
9月18日	シンフォニーヒルズ
11月23日	クッキング（すいとん）
1月8日	クッキング（もち）
2月12日	本所防災館、クッキング（チョコレート）

平日の昼食外出は以下の日程で行った。

9月14日	和食さと
12月6日	華屋与兵衛
12月14日、2月8日	はま寿司
1月11日	アリオ亀有

4. 従たる事業所「オリーブ」

それぞれの利用者の能力に合った日中活動を提供すると共に、身体機能維持の為の運動も行った。身体や精神の状態について、日々の変化に注意し、異変があった際には家族や寮職員と連携を取りながら対応した。

(1) 活動内容

①運動

タオル配達、作業部材の運搬、買い物等を通し、屋外で歩く時間を設けた。屋内では歩行や立位の維持、バランスボールを使用した運動を行った。

②軽作業

一部の利用者には軽作業を提供し、活動への意欲や気分転換に繋がった。作業工程の一部を抜き出して提供する事や、職員が補助する事で、個々の能力で無理なく生産活動に参加出来るよう工夫した。

③音楽活動

月に2回、音楽が好きな利用者へ向けて、専門の講師と音楽に触れる時間を設けた。音楽を聴きながら身体を揺らしたり、楽器を鳴らしたりしながら、音楽だけでなく講師との関わりも楽しんで参加している様子が見られた。

④クッキング

隔月でお菓子作りを行った。工程に参加出来ない利用者も、職員との触れ合いやお菓子の味を楽しんでもらえた。

⑤外出行事

7月ービッグボーイ白鳥店

⑥機能訓練

必要な利用者に対し、理学療法士の指導に基づいた機能訓練を週に数回行った。

5. 従たる事業所「エコライフプラザ」

(1) 日用不用品コーナー「ゆず屋」

ゆず屋は土日祝日を含め21名、まーちは15名の利用者が区民の方より無償で頂いたリサイクル品の販売を行う為、不用品の店頭回収、仕分け、選別、商品化、値段付け、販売品の整理及び陳列、接客、清掃、宣伝等を行った。各々の利用者が得意とする作業を提供する事でより自信を持ち、満足出来る活動となった。

店内のレイアウト変更、整理、棚やハンガーラックにPOPを付けた事により、利用者や職員は商品の陳列がしやすくなった。地域のお客様に喜んでもらえるよう商品の価格設定の見直しやセールを行った。来年度も継続予定である。

本年度もエコフェスタに参加し、販売を通じて地域の方との交流が深まった。

まーちでは、不用品の仕分け、選別、商品化、値段付けを行った。ゆず屋同様、各々の利用者が得意とする作業を提供する事でより自信を持ち、満足出来る活動となった。

また、作業を行いながらも会話を楽しむ事が出来るように利用者シフトの変更を行う事で、作業とコミュニケーションのバランスの取れた活動となった。

加えて、他事業所と連携を取り、ゆず屋のみでは困難な業務を協力してもらって営業、活動がスムーズに進むように図った。

収入 9,641,268円

(2) 喫茶コーナー「タッセル」

他事業所の利用に伴い、4月で1名が卒業。新しく4月より利用者1名がタッセルの活動を開始した。タッセルの活動は体力的に困難であるが、シフォンケーキ作りはやりたいと希望する利用者はシフォンケーキ作りに参加してもらった。平日は午前・午後各1~2名、休日は1~2名での活動を実施し、総人数8名での活動となった。

職員体制の都合により、1月より利用者シフトの変更を行った。各利用者の得意な業務を組み合わせ、営業出来るようにシフト変更する事で利用者の役割が明確となり、より自信を持ち、他者と共同で営業している事をより意識した活動となった。

お客様より挨拶に対する意見があり、活動開始時に挨拶の練習を行った。練習開始後

はお客様の顔を見て挨拶が出来るようになり成果が見られた。

キッチンkissで調理した弁当をランチタイム限定で提供した。1日6食限定としていたが、売れ行きが良かった為、2月より8食に増やした。

来年度、販売商品を限定して提供する事にし、職員が少ない状況でも営業出来るように配慮していく。

収入 4,026,690円

6. 従たる事業所「キッチン Kiss・原町食堂」

(2) キッチン Kiss

3月より利用者が1名増え、利用者計6名で活動した。

洗い場を担っていた利用者が人工関節の手術で2度入院した事で、職員が洗い場に入るようになり、徒歩での配達は7月頃に中断した。それに伴い、調理が早く終わった日や、洗い物が少ない日には残った惣菜の販売に出たり、買い物や音楽を流してカラオケをする等して気分転換を図った。利用者間の関係は良好で、目立ったトラブルもなく皆がのびのびと自分らしく過ごせる場となった。また、人数が少ない事できめ細かく日々の観察が出来、寮職員との連携を密に行う事が出来た。

収入 7,438,569円

(2) 原町食堂

原町食堂では利用者との会話や観察を丁寧に行う事で、不調に気づく事もあり、寮職員へ繋げる事も出来た。

収入 3,884,780円

(1) + (2) 収入 11,323,349円

7. 従たる事業所「モモズレシピ」

毎週月曜日と金曜日にシフォンケーキの製造を行った。主にタッセルで活動している方を中心に、月に数回活動してもらった。回数を重ねて行く事でそれぞれの工程がスムーズになり、自信に繋がった利用者もいた。製造したシフォンケーキは、喫茶タッセルや区役所販売会で販売した。

また、調理実習の場として6グループに分かれピザ作りを行った。生地作りから自身で行う事でそれぞれ達成感を感じる事が出来ていた。

○区役所販売会 6/21(水)・12/20(水)・2/14(水)

○エコフェスタ 6/25(日)

○ゴミ減量清掃フェアー 11/5(日)

収入 752,013円

8. 健康管理

コミュニケーションを取りながら通所後の様子観察を行い健康状態の把握に努めた。特に抗がん剤治療を行い鎮痛剤の服用をされていた利用者もおり、グループホーム職員との情報の共有と職員間の情報の周知、緊急時の対応の確認をした。

インフルエンザ感染は手洗い手指消毒を徹底したが1月末～2月にかけて2名、3月に1名が発症した。また、3月に入りグループホームでウイルス性胃腸炎者が出た。同じグループホームから通所する利用者の観察を行い予防の為、状態によっては早退や休んで頂く等の対応をとった。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 11/2

9. 地域交流

○社会福祉士実習生、区立中学校からの体験依頼があり受け入れた。

・東京家政大学 1名

・東京福祉大学 1名

・葛飾区立常盤中学校生徒2名 1/22～26

10. 防災

防火対策については、利用者の安全を最優先とし、安全かつ迅速な避難訓練を行った。利用者自身にも火災・地震の災害における防災意識の向上に努めた。

・6月29日 避難訓練（地震想定）

・12月18日 避難訓練（火災訓練）

・2月12日 本所防災館（地震・水害体験）

・3月14日 避難訓練（地震想定）

11. 職員研修

支援に必要な知識・技術を習得するために外部研修に参加した。また、内部研修を行い支援スキルの向上に努めた。

(1) 外部研修

○知的発達障害部会学習会 チームで連携を

○知的発達障害部会協学習会 看護スタッフ向け精神障害の方への理解

○知的発達障害部会学習会 高齢知的障害者に対する支援・取り組み

○知的発達障害部会協学習会 嚥下食・凍結含浸法

○葛飾区スポーツ指導員養成講習会

○はじめて社会福祉を学ぶ福祉職員の為に

- てんかん基礎講座
 - 全国知的障害福祉関係職員研究大会
 - 日中活動支援部会全国大会
 - 福祉施設経営基礎研修
 - 権利擁護・虐待防止セミナー
 - 福祉事業者における権利擁護・苦情対応
- (2) 内部研修
- ビジネスマナー研修
 - 身体機能・日常生活能力の維持のために
 - 人権・権利について考えよう
 - 摂食・嚥下障害と気道異物除去について